

日本大学工学部

校友会報

第 23 号

昭和48年7月10日

目 次

工学部と校友会の発展を目指して…	2
御挨拶・野引先生を偲んで…	3
昭和48年度定期総会…	4～6
研究報告・就職の現状…	7～9
新卒者の寄稿・在校生の声…	9～13
クラス会報告・事務局だより…	14
母校からの連絡・自動車のこと…	15
東磐梯寮への招待…	16



山形大学対日本大学工学部ラグビー交歓試合

工学部と校友会の発展を目指して

日本大学工学部長 外木有光



工学部校友会は年ごとに会員が増加し、ますます健全な発展をしていることを心からおよろこび申し上げます。そして部活動の助成金および図書の御寄贈をいただき、また下宿関係での御協力を得て学生諸君の勉学に日常生活に多大な好結果をもたらしていることを厚く御礼申し上げます。

会員諸兄はすでに御承知のことでしょうが、さる3月16日故野引工学部長が急逝されました。先生は工学部の紛争を解決するため紛骨碎身、意を決して事にあたられ、学園を現状のような平静な教育の場とし、また大学院（修士、博士課程）を新設し内面的にも充実されました。紛争以後の卒業生諸兄のうちには先生との思い出をなつかしみ、感慨を新たにし先生の御逝去を哀惜しているかたがたも多いことと思います。私達も工学部の大黒柱を失った思いであり、郡山学園にとっていかに大きな損失であったかを痛感し、先生が他界されたことを心から惜んでいます。

その後教授会において工学部長に推され、意を決してお引受けすることになりました。先輩諸兄の御協力を得、最善の努力を傾けこの重責を果していきたいと思っています。工学部の今後の方針およびその具体化については、故野引先生の明示されているとおり、郡山学園の将来の発展を約束する卓抜なるものであり、この路線にしたがって推進していくことが賢明な途と考えています。学部と大学院そして工学研究所を有機的に補いあい教育、研究の質の向上と内容の充実をはかることが最も大切であります。そしてこの広大な校地を教育上どのように生かしていくか、都会の学校では得られない特徴を出していくべきでしょう。

ややもすれば受動的になりやすい学生を自主的な且つ積極性を持った社会人として教育するための施策も必要でしょう。この点を非常に重視しています。

このような考えを有効に実現させるためには、そのため必要な施設が当然建築され、設備されなければなりません。また施設、設備の現状を再検討して、将来の規模と合致するようにすることについても、その時期が来たように思います。

すべての問題を推進する裏付けとなる経済的な基盤

を確立することも必要です。教学優先の新しい方針の具体化として、日本大学では海外留学、研究奨励等また内、外客員教授の招聘など教育、学問研究の施策は大巾に拡張されてきました。これも経済的な基礎の確立があってこそできたものです。学部の現状を見ますと、早晚経済的な基盤を安定させなければならない問題が出てくると思います。これは全員が正しい認識のうえに立って、同じ考え方で解決していくなければならないことでしょう。すなわち人の和がなければこのことはできない筈です。

私は、常時人の和を基本とした運営がおこなわれなければ、すべての事が円滑には進められないと思います。同じ問題でも立場が違えば見方も異なり、必ずしも、その問題に対する意見が一致するとは限りませんが、それでも問題が円満に解決するかどうかは人間関係にあると思います。

このように考えてみると、わが工学部は内容はもとより、校友会、父兄会などの団体も常にお互に理解し合って、工学部の教育がどうしたらより一層効果をあげ得るかを、中心に活動していただいていることを有難く思っています。そして諸兄の御活躍が多くの実を結び校友会が名実共にその質を高め、一層充実した内容をもって発展していくことを期待して一言御挨拶といたします。

（筆者 日本大学工学部 機械工学科教授）

～外木有光教授略歴～

昭和13年3月 日本大学工学部機械工学科卒業（現、理工学部）

昭和22年12月 日本大学専門部工科教授

昭和24年3月 日本大学第二工学部助教授

昭和38年1月 日本大学教授

この間、第二工学部学生課長、工学部学生指導副委員長、同委員長、昭和44年から工学部次長、東北工業高等学校長を歴任、昭和48年5月工学部長となる。東北工業高等学校長をも兼ねている。

御 挨 捭

校友会会長 太田 雄八郎



激しく移りゆく社会の中で、本学部の校友諸氏が、たゆまざる研鑽と崇高な使命感をもって各界の重責を全うし、御活躍されておりることは、誠に誇らしく、これに過ぐる喜びはありません。昨年は、由緒ある日本大学工学部校友会会长に推挙され、凡庸の才を尽して、一意専心皆様の御期待に報ゆるべく努力して参りましたのですが、もとより大成いたすに及ばず、役員の方並に校友諸氏には、いささかの御満足もいただけなかったものと考えておりました。

にもかかわらず、此の度は、再び会長として選任をうけ、非常に名誉なことであると思います、と同時に、改めて責務の重大さを認識いたしました。これは若輩なる私に対して、先年度の足りなき点を改めよとの命であると思います。かくなる上は、是が非でも、会長としての職責を全うし、本会の発展にいささかの寄与をいたしたいと存であります。どうか旧に倍して、よろしく御鞭撻下さいますよう御願い申し上げます。

特に本年度は、我が工学部校友会が、単に工学部のみの校友会としてではなく、日本大学校友会の一員として、広い視野から活動すべきであると考えております。

春まだ浅い3月の夕刻、野引工学部長先生の急逝に接した時、私は私の耳をうたぐり、驚き、まことに沈痛の

極みがありました。思えば、先生が学部長に就任なされたのは昭和43年10月、全国を席捲した大学紛争の嵐が吹きすさび本学園も重大な局面に立たされた時でありました。先生は最高責任者として冷静に事態を直視し、混乱する学生、教えを断絶した教職員を促し、又校友、父兄を奮起結集に導き、心血を費して紛争を解決した功績は、郡山方式という新しい言葉が生まれるほどの業績として賞賛されております。

先生は事を行うにあたって慎重且つ細心であり、一たび決すれば強い意志を持って立向っておられましたが、人情味のある温かい気持の持ち主でもあられました。私が校友会長時代、特に先生に可愛がっていただいた一人であります。校友会のことも考えられ又学生に対する思いやりも深かったです。あるときこんなことがあった。「会長さん、学生のために一つクラブ補助金を出して下さい。自治会が紛争以来解散しておるので、学生活動をしようにも出来ないんだ」この一言でいかに後輩学生を可愛がって下さっているかがわかり、校友会は臨時総会を開いて決議し助成した事を思い出します。

そのためには、日本大学卒業生の福島県在住者の職域調査と名簿の作成、更に可能なら東北地区在住者にまで調査域を拡げ、東北、北海道地区支部結成の資料にしたいと思っています。

お陰様にて、東京支部、東海支部両支部の御活躍は目ざましく、今後本会を運営する指標として、貴重な先導役を果しています。

さて、本会の会報は会員相互を結ぶ重要な緒であります。旧来はややもすると単なる報告に終始した感がありました、今後は出来るだけ会員の対話の場としたいものと考え、正会員（卒業生）、準会員（在校生）の生活状況、研究や生産技術等の紹介、学園の様子、本会の活動状況等を取り上げる計画であります。

念願の校友会館は、学部当局の多大なる厚意によって、52号館内の最良のコーナーに移転することが出来ました。事務機能も一段と合理化して、皆様に御不便を御掛けしないでみそです。正会員、準会員を問わず、「何なりと御相談、御要望等がありましたら、早速の御連絡を御願い致します。

諸氏におかれましては、時節柄多忙を極め、多々悩みもありましょうが、忍耐と勤勉の意を常に堅持し、御身大切に、増々の御発展と御活躍を祈念して、御挨拶といたします。

（筆者、土木工学科3回卒業、郡山市役所土木課勤務）

野引工学部長先生を偲んで

日本大学評議員 武田 仁幸



又先生はつねに謙虚に、未熟なる私達の言葉にも耳をおかし下され、それがどんなにつまらない問題であ

ろうと真剣に考えて下さいました。そして私達と共に悩み、ともによろこんで下さいました。慈父ということばは先生以外にございません。

先生は良く人にお会いになる時、あの厚い手で握手をして下さいました。何かほのぼのとした温みが全身にみなぎり、希望が湧いてくる思いでした。又メガネの奥に光る美しく澄んだ瞳は何時までも私の目に映っています。私達校友会の会合にも悦んで出席して下さいまして、酒が廻り宴たけなわになりまして特技の指人形で笑い、何度もアンコールにこたえられておりました。先生、もう私の住むこの世にはおいでになりません。先生の御意志であられました家族大学の精神は、自分の心のなかにしっかりとだいております。

先生が最後にお造り下さいましたクラブ部室の中に我々の校友会館が入居出来ましたのも、先生の温かいお心添えがあればこそで御座居ます。

先生、私共の命の限り、私達の中に生きていて下さい。生前の業績を感謝し、ご冥福をお祈り申しあげます。（筆者 土木工学科第3回卒業 前工学部校友会長）

昭和48年度 第16回定期総会開催される

日本大学工学部が、他に例を見ることが出来ない程教育的成果を上げて、我が国の社会に、更には世界の国々に貢献していることは、本学に学んだ者として、誇らしく思います。あの未曾有の大学紛争の中から指向した道程は、決して容易なものではなかった筈だが学部当局始め、関係者一同の勇気と努力と社会的責務の自覚をもって、本日の姿に達したのであります。

吾が校友会も、本学のたゆまざるこの精進の一端を受けて、重責を汚すことなきように立派な運営をすべく努力を重ねている次第です。

さて本会の昭和48年度定期総会は、桜香春風と共に霞中に漂う4月22日、郡山商工会館において、会員多数の出席のもとに定刻より開始された。

会は、半沢副会長の開会の辞に始り、故野引勇工学部長と、故野口英世評議員（校友会第15期）の御靈に対し、黙祷を捧げて、哀悼の意を表した。

その後、会長の挨拶があり、昨年度の活動状況や、本年度の課題等について述べられた。次いで、議長に根本年雄（機械4回卒）、書記に鈴木清司（機械17回卒）、山田吉美（機械19回卒）の各氏が選出され、直ちに議事に入った。

本年度は、東京支部、東海支部から、特に責任ある方々の御出席を戴き、新旧の顔々が交錯する中で、活発な質疑があり、本会の活動に対し貴重な指示を得ることが出来ました。

尚、議事の進行状況は以下の通りである。

第1号議案 昭和47年度会務報告佐藤事務局長

- あかしや図書供与 書籍決定
- 宛名印刷機購入
- 校友会館移転について
- 下宿対策委員会
- 東海支部発足、支部長・平野卓（土木3回卒）
- 工学部長、野引勇先生の工学部葬等の報告があり、承認された。



第2号議案 昭和47年度会計および監査報告

◦決算報告（表1）により、水田経理部長より説明があり、次いで監査委員3名を代表し、菅野宗和（機械2回卒）委員より監査報告がなされ承認された。

第3号議案 昭和48年度事業計画と予算の審議

松山事業部長から今年度の事業計画について次のようない説明があった。
◦北海道支部結成の促進
◦会員名簿の発行は今年3月卒業者については勿論であるが、それ以外の日大関係についても調査する。
◦会報の発行、下宿紹介、図書の供与、卒業祝賀等については従来どおり継続実施する。この事業実施による予算は別項のとおりである。

太田会長、半沢、武藤両副会長から補足説明があった。質議の中心は歳入の終身会費、入会金の計上に向けられたが、討論の結果原案どおり可決された。

第4号議案 昭和48年度役員選出について

選考委員をあげて選出することになり、委員は各科1名と執行部1名計6名によって選考し、別項のとおり新年度役員が決定した。

以上のとおり議案の審議は終了したが、次のような報告があったので付け加えておきたい。

1. 東京支部千葉分会が結成されたことについて、土木2回卒の鈴木照四止氏より報告があった。
2. 東海支部結成状況について、土木3回卒の平野卓氏より詳細に説明があった。
3. 日本大学評議員土木3回卒の武田仁幸氏より日本大学の新年度予算等について報告があった。

かくて本年度定期総会の日程は終了し、武藤副会長の挨拶で閉会となる。

続いて、母校教職員の方々、父兄会長殿、来賓多数をお迎えして懇親会に移り、旧師を囲んで、遠近の先輩、後輩が時の立つても忘れて歓談した。最後に想い出深い「日に日に新たに 文化の華の……」を高らかに合唱して解散となる。



昭和47年度 岁入・歳出決算報告書

(表1)

昭和48年3月31日現在

一般会計

款項	種目	予算額	決算額	比較増減
△印……減				
歳入の部				
会費	1 終身会費	3,000	2,953,000	2,950,000
	2 入会金	3,000	4,625,900	4,622,900
繰越金	3 前年度繰越金	3,460,814	3,460,814	0
繰入金	4 預金利子	35,000	43,238	8,238
	5 雑入	1,000	4,170	3,170
繰入金	6 基本財産より繰入	5,700,000	1,218,524	△4,481,476
	合計	9,202,814	12,305,546	3,102,832
歳出の部				
事務費	1 給料・手当	1,300,000	1,093,180	206,820
	2 保険料	130,000	1,110,617	19,393
	3 交通費	221,000	221,000	0
	4 旅費	100,000	85,620	14,380
	5 交際費	200,000	181,700	18,300
	6 消耗品費	50,000	35,375	14,625
	7 備品費	550,000	550,000	0
	8 印刷製本費	175,000	152,900	22,100
	9 通信運搬費	250,000	59,041	190,959
	10 修繕維持費	10,000	2,100	7,900
	11 光熱及水道料	15,000	15,000	0
	12 雑費	30,000	29,205	795
	計	3,031,000	2,635,728	495,272
事業費	13 相懇対策費	100,000	34,500	65,500
	14 会報発行費	800,000	715,050	84,950
	15 名簿作成費	150,000	148,295	1,705
	16 下宿対策費	20,000	6,860	13,140
	17 図書供与費	300,000	300,000	0
	18 卒業祝賀会費	350,000	271,600	78,400
	19 負担・補助・援助費	850,000	840,000	10,000
	20 旅費	200,000	86,100	113,900
	計	2,770,000	2,402,405	367,595
公会議費	21 総会費	200,000	155,631	44,369
	22 役員会費	250,000	234,712	15,288
	23 連絡協議会費	300,000	110,642	189,358
	24 旅費	400,000	288,690	111,310
	計	1,150,000	789,675	360,325
予備費	25 予備費	251,814	60,887	190,927
	計	251,814	60,887	190,927
積立金	26 積立金	2,000,000	2,000,000	0
	計	2,000,000	2,000,000	0
	合計	9,202,814	7,788,695	1,414,119

A 一般会計

(歳入総額) 円 (歳出総額) 円 (差引残額) 円
12,305,546 - 7,788,695 = 4,516,951

B 校友会会館移転特別会計

歳入の部			歳出の部		
基本財産	予算額	決算額	繰越額	予算額	決算額
より繰入	4,000,000	3,000,000	1,000,000	4,000,000	3,000,000

(註) 繰越額は基本財産に含む

C 基本財産(積立金)

- (1) 昭和46年度の繰越額 12,406,780
- (2) 昭和47年4月から昭和48年3月までの利子 682,732
- (3) 昭和47年度の積立額 2,000,000
- (4) 昭和47年度に一般会計へ繰入額 - 1,218,524
- (5) 昭和47年度に特別会計へ繰入額 - 3,000,000

現在額 10,870,988

(特別会計の繰越額 100万円を含む)

D 繰越額

$$A + C = 4,516,951 + 10,870,988 = 15,387,939$$

上記のとおり報告いたします。

昭和48年3月31日

日本大学工学部校友会

会長 太田 雄八郎

監査 諏佐達也

同 菅野宗和

同 高野操

昭和48年度 予算書

(表2)

款項	種目	予算額	前年度予算額	比較増減
△印……減				

歳入の部

会費	1 終身会費	3,000	3,000	0
	2 入会金	3,000	3,000	0
繰越金	3 前年度繰越金	4,516,951	3,460,814	1,056,137
繰入金	4 預金利子	40,000	35,000	5,000
	5 雑入	1,000	1,000	0
繰入金	6 基本財産より繰入	4,400,000	3,700,000	△1,300,000
	合計	8,963,951	9,202,814	△ 238,863

歳出の部

事務費	1 給料・手当	1,350,000	1,300,000	50,000
	2 保険料	135,000	130,000	5,000
	3 交通費	221,000	221,000	0
	4 飲食費	100,000	100,000	0
	5 文書費	20,000	20,000	0
	6 消耗品費	50,000	50,000	0
	7 備品費	220,000	550,000	△ 330,000
	8 印刷製本費	160,000	175,000	△ 15,000
	9 通信運搬費	100,000	250,000	△ 150,000
	10 修繕維持費	10,000	10,000	0
	11 光熱及水道料	10,000	15,000	△ 5,000
	12 雑費	34,000	30,000	△ 4,000
計		2,590,000	3,031,000	△ 441,000
事業費	13 和職対策費	250,000	100,000	150,000
	14 会報発行費	1,000,000	800,000	200,000
	15 名簿作成費	180,000	150,000	30,000
	16 下宿対策費	20,000	20,000	0
	17 図書供与費	300,000	300,000	0
	18 卒業祝賀会費	350,000	350,000	0
	19 負担・補助・援助費	800,000	850,000	△ 50,000
	20 旅費	200,000	200,000	0
	計	3,100,000	2,770,000	330,000

公議費	21 総会費	200,000	200,000	0
	22 役員会費	300,000	250,000	50,000
	23 連絡協議会費	300,000	300,000	0
	24 旅費	300,000	400,000	△ 100,000
	計	1,100,000	1,150,000	△ 50,000
予備費	25 予備費	173,951	251,814	△ 77,863
	計	173,951	251,814	△ 77,863
積立金	26 積立金	2,000,000	2,000,000	0
	計	2,000,000	2,000,000	0
合計		8,963,951	9,202,814	△ 238,863

歳入額 8,963,951円

歳出額 8,963,951円

差引残額 なし

以上のことおり提案いたします。

昭和48年4月22日

日本大学工学部校友会

会長 太田 雄八郎

昭和48年度役員

(表3)

役名	卒業	氏名	役名	卒業	氏名
会長	土木3回	太田 雄八郎	評議員	土木5回	吉田 明恒
副会長	化学6回	半沢 忠	全	土木13回	西村 孝
副会長	土木8回	武藤 貞泰	全	土木17回	大内 幹夫
事務局長	機械9回	佐藤 光正	建築	建築4回	伊藤 雄亜
理事・事業部長	機械4回	根本 年雄	建築	建築7回	小栗 治男
理事・経理部長	土木3回	松山 光克	建築	建築10回	馬場 寛吉
理事	電気3回	鈴巻 旦	建築	建築15回	森 吉彦
全	機械4回	水田 守	建築	建築18回	吉美久
全	電気9回	高久田 稔	機械	機械13回	小野沢 元
全	土木10回	落合 正喜	機械	機械16回	佐川 昌輝
全	建築14回	宗像 武久	電気	電気2回	関根 昭一
全	化学14回	小川 敏彦	電気	電気14回	伊藤 宜世
全	化学15回	小林 義美	電気	電気17回	細井 茂
全	機械17回	鈴木 清司	工化	工化2回	崎道 茂夫
日本大学評議員	土木3回	武田 仁幸	工化	工化5回	手仁
監査	建築1回	諏訪 達也	工化	工化13回	五十嵐 昭教
全	機械2回	菅野 宗和	工化	工化19回	新田 起志雄
全	化学3回	高野 操	東京支部長	土木3回	古村 和夫
評議員	土木3回	佐藤 幸助	東海支部長	土木3回	平野 卓

純酸素曝気による活性汚泥法の研究

—都市下水処理—

西 村 孝



現在、都市下水の処理にあまねく利用されている活性汚泥法は、その技術の摇籃時代にさかのぼれば、およそ一世紀の歴史を経てきた。この間、主として現場での試行により、各種の変法を生みつつ発展をとげ、個別技術としては漸次、完成したと言える。活性汚泥法の発達は都市下水の処理と切り離せないが、今日では、有機物（BOD）を含む各種の工場排水にも適用され、BOD除去の単位操作として確固たる地位を築いている。

活性汚泥法が、かくも汎用されるに至った経緯を正確にたどることは出来ないが、この技術には下記に示すような、その汎用に価する確かな利点がある。

- (1) 除去されたBODをCO₂、H₂O、NH₄⁺など比較的無害な物質に直接転化させる。
- (2) 装置技術や運転操作が比較的簡単である。
- (3) 水質水量などの入力条件が多少変動しても、出力である処理水質が安定している。

以上のように、BODを除去する個別技術としては、他に凌駕されることのない合理性をもつ活性汚泥法も比較的広い敷地を必要とするため、処理場用地の取得が次第に困難になりつつある我国にあっては一つの試練に立たされている。流域下水道のように処理場用地が十分確保されている場合もあるが、既設の都市下水処理場では計画時の予測を越える汚水量と汚濁量のために過負荷状態になり、拡張ないし新設の必要が生じても都市化のため用地取得が困難になっているケースが多い。富栄養化など水質汚濁事情の悪化に伴い、BOD以外の物質をとる処理、即ち3次処理が要請されている都市では、この状況が更に深刻であろう。都市内の工場排水処理でも同様の傾向にあると言え、この時点で2次処理のコンパクト化や2次処理と3次処理の合一化が試みられるのは当然であり、またこれらの試みに深い関心がもたれるのも当然である。

これらの試みのうち、現在、話題になっているものには次のようなものがある。

- (1) 欧州式ハイレート法 (European High Rate)
- (2) 深槽曝気変法 (Deep Aeration)
- (3) プラスチック支持材を用いた塔状散水床法
- (4) 物理化学処理 (Physico-Chemical Treatment)

現段階では、これらのどの方法も我国の都市下水に適用された例はなく、いずれも実験ないし構想の段階にある。しかし、このうち欧州式ハイレート法は欧州、なかんずく、西独とスイスで都市下水処理に利用されている。また、我国にあっても敷地が限定された工場廃水の処理は、散気曝気方式に比べ酸素移動の動力効率がかなり高い表面曝気により、欧州式ハイレート法と同様の負荷条件で設計運転され、良好な処理実績をおさめている。ごく最近、欧州式ハイレート法の曝気に酸素を利用する変法が開発され、が然注目をあびた。この方法は酸素メーカーとして有力なUnion Carbide㈱が酸素市場の拡大というより、むしろ同社の誇る人工ゼオライトの分子篩技術の市場拡大を求めて研究された結果であると推定されるが、曝気を空気に替え酸素を利用している点を除けば、まぎれもなく欧州式ハイレート法である。

しかしながら、Union Carbide㈱がFWQA（米国内務省水質汚濁防止庁）との契約で行なったBatavia処理場（ニューヨーク州）におけるこの方式の実験結果報告には酸素を用いることにより、通常の空気曝気にはない次のような利点が生ずると主張されている。

- (1) 除去BODあたりの汚泥生成量が少くなる。
- (2) 汚泥の沈降性、濃縮性が良くなる。

Bataviaの報告では、この2つの利点が生じた原因については追求されていないが、同報告では、この知見にもとづき経済計算を行ない、この酸素曝気方式は従来の空気曝気方式に比べ、都市下水処理の単価を15%程度軽減出来るとの結論を下している。汚泥処理が汚水処理全費用の50~65%を占めることから(1)の利点が事実であるならば、この費用軽減は十分うなづけるものである。

しかし、報告書(FWQA)にも記述されているように、この現象は従来の知見から説明出来ないものである。

また、Bataviaでの酸素曝気と空気曝気の比較実験の方法は、この種の結論を下すに必ずしも異論の余地がないものではない。そこで、筆者は欧州式ハイレート法における空気曝気と酸素曝気の完全な並行実験（野外実験）を行ない、処理水質、余剰汚泥量、汚泥の沈降性などの動力学的比較を行なった。この実験は筆者の研究開発した独自の実験プラント（写真-1参照）を下水処理場に据え、都市下水の最初沈殿池溢流水を

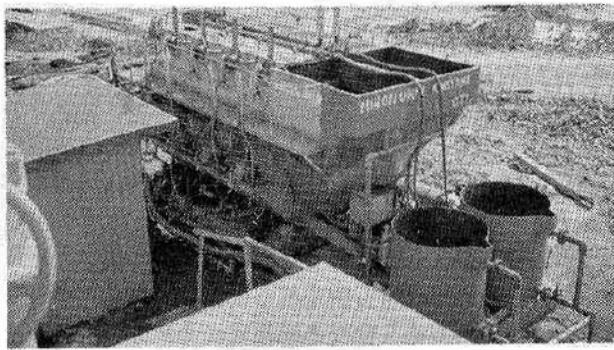
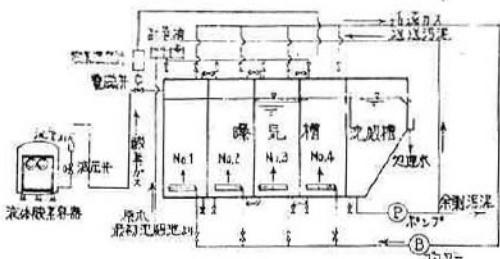


図-1



用いて行なわれた。まず、1971年6月から9月まで予備実験として愛知県豊橋市の野田下水処理場で行なわれ、プラントの不備な点を補修したのち、本実験は1971年11月から翌1972年の4月までの約6カ月間福島県郡山市下水処理場で行なわれた。その過程及び成果については、日刊工業新聞、昭和46年2月10日（

1971年）及び昭和47年4月19日（1972年）の全国版、昭和48年4月27日（1973年）の東北北海道版等で紹介され、土木学会及び日本下水道協会の各発表会で、主なデーターについて報告した。

以下、この実験では次のような実用化への結論が得られた。

- (1) 酸素曝気では、水質水量の変化があっても滞留時間2時間（現行の3分の1）で十分処理出来る。
- (2) 汚泥の沈降性及び濃縮性が良いので最後沈殿池も縮小することが出来る。（現行の2分の1）
- (3) 除去BODあたりの汚泥生成量は全く差がない。等であり、FWQ Aの報告と一部分異なる結論が得られている。また、筆者のあとをおって、この研究と同様な実験研究が東京都、川崎市、大阪市、京都市、神戸市、神戸大学等で行なわれている。

しかしながら、経済性、保守管理の問題等、いくらかの解決しなければならない点もあるが、酸素曝気を含め、欧州式ハイレート法は用地難に悩む我国の下水、工場廃水の活性汚泥処理に光明を与えるものとなるであろうと確信している。

（筆者 土木工学科第13回卒業 理工学部大学院修士課程修了 現在、日本大学工学部土木工学科専任講師 下水道専攻）

就職の現状と一展望

工学部就職指導室 横山勇一

協定遵守の初年度卒業生

1 昨年のドルショックは、わが国の産業界に深刻な局面をもたらしたが、求人の面から見ると全く回復し、このままでいくならば景気は着実に上昇し、今後労働力の逼迫は、一段と強まるものと推測される。

わが学部の就職希望者は本年約1300名である。全国理工系就職希望者は約9万余名といわれ、現在本格的就職シーズンを迎えて、真剣に自分の進路を考え、かつ企業を選択し、関係書類を提出しているといった状況である。

7月1日推薦事務開始という就職協定遵守が、各大學間、労働省、文部省、財界首脳陣が中心となり、強力に推進した結果、経営者諸団体等の賛同を得、ここ数年来の求人早期化に終止符が打たれようとしている。昨年までの傾向をみると、3年次から就職問題と取組まざるを得ず、友人の早期内定に刺戟され憂慮すべき状態におかれていた。また早期内定後は、その安心感から、もし勉学の減退を招いたとすれば、本人にとって大きな損失であると思われるを得ない。

本年は、協定遵守下にあって、最終学年の貴重な勉学に没頭することができ、悪弊が解消された初年度の卒業生ともなるわけである。企業側からみても喜ばしいことであると思われる。

一如の成果

早期選考防止のみのりをあげた本年は「集中求人短期決戦」といわれる大きな特徴があらわれるにいたった。言わば大・中・小企業とも一斉求人に踏みきったわけである。したがって採用人員に満たない企業が続出するものと考えられ、追加募集、再募集によって採用人員を満たそうとする傾向は否定できないところである。

最近、大小を問わず企業の首脳部あるいは担当者の訪問が一段と増加しており、いずれも多目的をもって訪れるわけであるが、本学部を訪れて驚歎されるひとつに環境があげられる。校門よりの桜並木、古杉と樺とアカシヤに囲まれた自然的環境、校内各所での各種運動競技などは、とうてい都会では考えられないことであり、まさに理想的環境であると賞賛をうけるこ

とがしばしばある。

本学部の在校生数は現在5000余名を数え、年々教職員おるび施設設備が増強されているのが周知の通りである。よって一学部と見做すより工業大学というべき隆盛発展をみているといつても敢えて過言ではないと思われる。

また高等教育懇談会の基本構想である大学の地方分化のうえからいっても、本学部は先べんをつけたといえるであろう。

求人のため母校を訪れた校友のひとりは、昔の記憶を辿りようやく見当てたいまではひとつだけ残る木造建物に感無量をおぼえ、さらにおそるおそる周囲を見廻しながら進むとその奥まった一隅に思いがけないものを発見した。あつたあつたと記憶に蘇る古びれた一脚のテーブル、そのテーブルこそ私どもが学生時代始めて購買部を設け、私が昼休みも顧みず全学生のために最初にパンを売ったそのときのテーブルですと懐かしむように話していたが、当時窮屈がちであった食料事情のもとで、学園内でパンを買えるまでに努力し実現化した若き情熱のほどに強く感激した次第である。

こうした先輩の活躍が実社会に出てもそのままでいようはずがなく、企業より訪れた方々より第何回卒業の誰々さんは、今度専務に昇進しましたよ。それから何回卒の誰々さんはというように、各界各層で中堅幹部として、あるいは首脳陣として、めざましい活躍をなされています。本学部の求人が年々累増している現状のかけにこうした先輩の影響も大いに関連しているものと考えられる。

選職の重要性

自己の総合的観察を確立し、つぎに生涯を託す産業あるいは企業を選択するのであるが、その調査研究のためには、世界経済や日本経済の現状や将来への動き。



47年の4月にチタンの研究を始めることになったとき、我々卒研班のメンバーの誰もがその溶解に半年もかかるとは予想しなかった。チタンはその融点が1668°Cと高く、しかも高温で活性な金属である。最初は黒鉛のルツボを使用して溶解する予定であったが、Tiの性質を調

べて行くうちに炭素は純Tiの延性を害し、耐衝撃性溶接性その他耐食性などを悪くすることが分かって来

を新聞専門誌などにより、端的にとらえ、つねに理解する習慣を身につけることはきわめて大切なことである。「今日の隆盛あすの衰退産業」がないことはいい切れない。かつてわが国復興期に君臨した石炭産業、つい十年まえまで花形産業であった映画産業も、現在からみれば、歳月の変化を如実に物語るものである。

今後10年20年先の推測はまことに難しいが、現在とくに問題とされている情報産業、宇宙産業、海洋産業省力産業、住宅産業、公害防止産業、レジャー産業などがあげられている。

しかし単に将来的有望産業であると速断することは危険である。大企業と雖も経営多角化の一環として、例えば海洋産業の将来を考え、報いを考えず地道に研究開発を行なっているのが実情のようである。とくに上記の有望産業といわれる産業群も、新しい産業であるだけに困難性と限界への直面などの問題が山積みしていることを十分理解のうえ臨まなければならないと考えられる。

つぎに企業選択にあたり重要なことは、単に他人の体験や主観的な情報やすすめだけで将来的企業を選択することは危険であり、指導教授、校友、先輩、会社担当者等の意見をきき、調査の参考とすることは大切なことである。つぎに企業の現時点のみならず10年、20年先の将来性、発展性を考慮して選択すべきである。第3として企業の選択目標は巾を広め、能力相応の企業を第1志望より第3志望まで確立しておくべきである。

最近企業合理化により、職種採用時代へと移行しつつあり、その結果少数精銳主義の傾向が強まり、したがって大学卒業時の就職こそ一生を支配する重要性をもつものであるから、卒業期の就職についてはじゅうぶんなる決意をもって臨み、晴の栄冠を得られることを、ここから切望する次第である。

チタン研究事始め

阿 部 寿 一

た。そこでアルゴン雰囲気中でアーク溶解することになり、アーク炉の設計製作にかかった。アーク溶解法は水冷された銅製ルツボを使用して、タングステン電極との間にアークを飛ばせて金属を溶解する方法であり、溶解したTiは水冷ルツボを濡らさないので、ルツボからの汚染は全くない。このとき一番心配したこととは、溶解中のTiに冷却水がもれたら爆発するんじゃないかということであった。こんなことから炉はなんともグロテスクな形になった。しかもこの一号炉は我々が旋盤加工から溶解まで、全て自分らの手で作ったものであった。電源は交流200Vにニクロム線の抵抗を

入れたものだった。ところが一度数gのTiの溶解できただけで、後はうまくいかない。8月に入り、いっこうに進まぬ実験に、遂に実験にTiを溶解している工場に見学に行くことになった。8月15日頃、我々学生と広川教授、渋谷助手の6人は茅ヶ崎の東邦チタニウムK.Kを訪れた。そこで我々はルチル鉱が精錬されて金属Tiが得られるまでの全行程を見学し、Tiについて興味ある話を聞いた。工業的には、1tonの塊を溶解していたが、品質管理及実験室用に数10gの塊を溶解していく、これが我々にとって非常に参考になった。溶解は大気圧よりいくらか高い圧力のアルゴン雰囲気中で行なうのであるが、このとき圧力計にゴム風船を使用することはここで教わったことである。茅ヶ崎から帰って直ぐ2号炉の製作にかかり、今度は、炉をガラスの円筒にして周囲から透視できるようにした。そして50Aの直流電源を使用し、数gのTiを数分で溶解できるようになったのは10月末であった。メタリックに輝くTiを手にしたとき、皆がその美しさに感激したも

のだった。その後、純Ti及Ti-Al合金について焼入組織とマルテンサイト変態との関係並びにその硬度と焼入条件等の関係について、光学顕微鏡、電子顕微鏡X線回折装置、硬度計を使用して調べ、論文が完成したのは3月2日だった。それまでの一年間、毎週ゼミを行ないながら、毎日夜遅くまで実験を行ない、数え切れない程の問題を乗り越えて、我々は生きた知識を身につけたと思う。これは、毎日夜遅くまで、我々とともに実験された広川教授のおかげであり、教授への信頼の下に我々のグループは協力できたのである。私は大学こそ生きた知識を身につける所と思う。優れた人と接して自己を鍛え、人間を磨くこそ大切であると思う。

尚、本研究については、応用物理研究会々報No.7を参照されたい。

(筆者 機械工学科第21回卒業

日電バリアンK.K勤務

)

就職して

佐久間 典子



初夏ですね。太陽と緑と女の子のまぶしい季節。去年の今頃は、「さて、今年の夏休みの計画は…？」などと、のんきなことを考えていたのですが…。

就職してまず第一に感じたことと「一日がとても短い。」何もかも？なことばかりですから無我夢中なのでしょう。根が忘れ

ん坊で、おっちょこちょいの私は、失敗が続いて時々自己嫌悪に陥ります。でも頼もしいお父様方（私の職場は、皆妻帯者です。）の深い愛情に包まれて、私のひどい、いとも滑稽な失敗も涙から笑いに変身です。

働くってすばらしいことです。学生時代には、味わうことのできない充実感があります。といっても働くこと=充実ではありません。右も左も？な私にとって、初步的な技術をマスターすることが、現在の目的です。毎日が新鮮で珍しく、わからないことをやっと理解し得たときの快感と、知らなかったことを知ったときの喜びが充実した人生と思えるのでしょうか。又一方、何も考えないで、ほんやりと、白い雲の流れて行く様子を眺めているのが大好きです。怠け者なんて思わないでください。何もかもがめまぐるしく変動している昨

今、あまりにも日本人は働き過ぎると言われております。社会保障が十分でないので、生活への安心感を持ち得ず、心にゆとりがないときめつけるのは、早合点かもしれません、一理あると思います。ある新聞で、読んだのですが、角のたつところを丸くおさめるにはイギリス人のユーモアの精神をスマートにいかしたらどうかということでした。大学生活で、自分の選んだ専門分野の根本的な思想的な概念を身につけるのは、もちろん、もう一つ精神的に余裕ある4年を通して大いに豊かな人間性を育んでほしいと思います。

時々昔の悪友連と会ってお互いの近況報告をし、何かにつけて刺激し合っております。良い友人は、たくさん持つべきです。自分の生活を精神を暖かいものにしてくれます。特に、私の職場内には、女性は私一人ですから、女友達は、とても大切ですし、私を男性化から女性化にもどしてくれます。悪気のない、甘い物を食べながらのおしゃべりは、仕事疲れの頭に、すばらしい解放感と女子らしさを与えてくれます。

どうぞ、後輩の皆様、らしさをたいせつに、さわやかな学園生活をエンジョイして下さい。

(筆者 建築学科第21回卒業

藤橋ビルK.K 桜田建築事務所勤務)

一先輩として後輩諸君に一言一

和 泉 朗 明



卒業も間近かになってこんなことを感じました。

……もう卒業なのに何かやり残したこと�이いっぱいあるんじゃないかなあ？あんなに苦労して入学して、この4年間で何を得たんだろう？入学当初心に描いていた大学生活はこんなものじゃなかったはずだけど……。

こんな疑問を持ったのは僕だけだったでしょうか？入学当初はいろいろな期待に胸をふくらませていたものです。——学究生活、クラブ活動、心身の成長、豊富な余暇を利用した旅行、友人との出会い、……その他いろいろなものがありました。単に大学を出るという事だけが目的で入ったはずじゃなかったと思います。それが大学生活に慣れるにつれて、だんだん初めの目的とは異なった方向へ、楽な方へなまける方へと進んでしまったようです。そして、4年も終わりごろになって、なんだかあっという間に卒業だなあ、4年間試験とレポートに追われているうちに過ぎちゃった、なんて思うんだから人間というのはまったくかってなものです。

長い人生のうちでも大学4年間というのは、自分の好きな事のできる時間が有り余るほどある期間だとい

うこと、そしてもっとも貴重な期間だということはだれでも認める事だと思います。この貴重な期間に何をするかということが、その人の人生を左右すると言ったら大げさでしょうか？卒業したばかりの僕なんかがこんなことを言ったら本当にましいきだとは思うんですが、4年間をなんとなく過ごしてしまったような気のしている僕としては、後輩の皆さんには是非有意義な大学生活を送ってほしいんです。そして、それには、何が本当に有意義な事かをまず皆さん自身で考えなくっちゃいけないと思うのです。よく考えればどうでもいいような事で時間をつぶしてしまって、レポートや試験のために徹夜を余儀なくされるような生活じゃ、まるで小学生の夏休みみたいなものだと思うんです。休みの終る3、4日前になってやっと宿題に本腰を入れるようなね／大学4年間を食物にたとえようと思います。『ちょうどおなかもすいたことだし、今食べなければ腐って食べられなくなる物だから今のうちに十分食べておこう。でもすぐ消化してしまうくらいの量にしておかないとあとで消化不良を起こすよ／それにおいしく食べるには適当な運動でおなかをすかしておく事も大切だね／』

(筆者 工業化学科第21回卒業

平岡織染K、K草加工場勤務)

所 感

安 斎 茂 昭



卒業して早2カ月余になります。入社以来、4月いっぱい新入社員教育、工場内実習、専業教育などがあり、実質的な仕事を始めたのが5月上旬からで、やっと会社の雰囲気にも慣れ、今は自分の時間が持てるようになりました。僕の配属は、技術部機器研究室です。最近新しく設置され、今行なっている仕事内容は、開発部研究4課（当初配属された課、廃止）の継続です。この研究室は、課長以下4人の少人数です。現在継続の仕事が終わる前までに研究テーマを搜さなければなりません。機器研究室という名の通り、機器であれば何を研究してもよいのであるが分野が広く、思案中です。我社はエンジン接続機、発電機メーカーであるが、公害とかいろいろな問題から過渡期にあります。

在学中は、電気研究会強電部に所属していました。学生時代、クラブ活動をして良かったと思う。何故なら、会社に入れば、人前に出る機会も多く、自分の主張したいことは、年下や同年輩の人と同様に年輩の人に対してもその主張を納得させなければならない。又人間関係も非常に大切になってきます。新入社員教育の時感じたことであるが、積極的に討議に参加し、発言をしているのは、そういう場に慣れているクラブ活動をしていた人達で、学生時代、学校と家、或は下宿をただ往復していた人達は、率先して参加している人が少なかった。それでなくとも工科系の学生は、頭で勝負(?)というか無口で堅物が多い。学生時代何かに所属して経験しておくのも良いことだと思う。クラブ活動に所属しなくても、何か自分で出来るものを探し、例えば、旅行とか、学生時代にしか出来ないものでも結構、在学生の皆さんも何か目的を持って有意義に過して下さい。それから悪友でもいいし、なるべく多く

の友人を作ることが大切だと思う。僕にも学生時代の友人がたくさんいますけれど、会社に入ると仲々いろいろな問題で真の友人はできないものです。最後に、心配事と言えば、自分で設計した図面を発注するわけであるが、クレームのこないこと。自分では完全なものと思ってもいざ製作してみると諸々の問題が出てくるからです。製作においては理論より経験に重点が置

かれ、学生時代の理論があまり役立たないことが多い。計算によれば、完全であるが、製作品は不良品が多々あるそうです。以上が僕の感じたことです。

以上

(筆者 電気工学科第21回卒業
デンヨーK.K埼玉工場勤務)

社会に出て2ヶ月

杉崎 郡治



私は、今春3月（第21回卒）に土木工学科を卒業し、現在大陽酸素K.K環境施設部に勤務しております。なぜ土木工学科を出ながら化学メーカーに就職したのかと疑問をお持ちになられる方々が多いかと思いますが、それは、現在廃水処理において最も注目されている「純酸素曝

気による廃水処理」の研究を行なっている関係から入社する事にしたのであります。

我社においては、酸素曝気の研究の他に中小規模の処理場の設計及び施工を行なっております。

現在私は、国立大阪南病院にて3千人用の下水処理場の建設に従事しております。

私が近ごろ痛切に感じる事は、技術と人間関係の兼合いの難しさであります。

例えば下請けの人との関係であります。私が大学で学んだ事が、そのまま通用しないであります。それは、資金的な事が入って来て、理論的にはこの方法が一番良いとしてもそのまま行なうことができないであります。私が自分の考えをあまり強調すると人間関係までひびが入って来るのです。

それは、まだ経験が少ないといわれればそれまでですが、私は今思うにもう少し学生時代にアルバイト等により実務的な勉強を行なっていた方が良かったのではないかと考えております。

ただ私は、学生時代4年間土木研究会に所属し、先輩諸氏と話しあう事が他学生よりも多く、又研究会においては、少なくとも年一回は、見学会を行なった為め色々と現場を見る機会も多く社会に出た現在多少なりともプラスになっております。

何か、まとまりのない文章になってしましましたが御勘弁願いたいと思います。

最後に勝手ではありますが、この場をお借りして、学生時代に色々、お世話をいただいた木村先生、深谷先

生、西村先生、に御礼を申し上げると共に、杉崎は、大阪で、元気に働いておりますと御報告いたします。又、校友会の先輩諸氏に御会いする機会がありましたら、是非経験談等を御聞かせいただけますと幸いであります。

(筆者 土木工学科第21回卒業

大陽酸素K.K勤務)

お願い

1. 校友会終身会費納入について

何時ものことで恐縮ですが、会費は本会運営の貴重な資金でありますので、未納の方は是非是非御納入下さいますようお願い申し上げます。

昭和45年度第19回までの卒業生は 2,000 円

それ以降の卒業生は 3,000 円

2. 住所・勤務先・改姓等の報告について

近年中に校友会総合名簿を発行する計画です。全校友を正確に掲載することが主眼ですから、異動の場合は早急に御報告下さい。

なお、連絡不明者が相当あります。そうした校友について何等かの手掛りがありましたならば、連絡方法について御協力下さるよう合わせてお願いいたします。



私 の 道

機械工学科3年 橋 本 利 子

幸なことなのか、不幸なことなのか、私は、日本大学工学部、機械工学科に、昭和46年度生として入学致しました。以来「どうして機械工学科を選んだの」と何回尋ねられたか分かりません。

自分の一生のことですから、それは色々と考えもし、悩みもしました。国文科選び、文学中に描かれる人生の葛藤を究めたいとも思いました。当时、私は、ある文学者に心酔していましたから。

でも文学の持つ、何とも言い様のない、女々しさみたいなものが、どうしても私に、もう一步踏み出させなかった。それに比べ、機械のもつ、冷たさ、非情さ更に心を持たない数字の厳しく、美しい世界、決してあやふやな要素の入り込めない世界、そんなものに強く魅力を感じたのです。これが本学、入学の動機となりました。今でこそこんなふうに申すことができますが、当時は、しどろもどろになって、「あの、その、機械は冷たく、人の心はあやふやで、機械は心がなくて、それが良くて憧れて、どうしようもなくて、それで……」なんて答えていました。どんなに説明しても気まぐれな女の子としか思われなかつたかも知れません。

とにもかくにも、このような理で、工学部は、機械工学科に在籍することになりました。

教養課程の一年次が、夢中のうちに過ぎ去り、専門の二年次が、始まりました。それは、かつて、私が考えていたような、甘い世界ではありませんでした。

走ることにしても、実習で振るハンマーの操作にしても、肉体的なハンデはどうすることも出来ません。もっと困ることは、考え方の違いです。20年もの間、

女として取り扱われてきたものと、男として取り扱われてきたものとは、同じようにしようと思っても、何もかも違いがあります。勉学の上で、種々、論じ合っても発想の原点に差があるのには、淋しさすら感じます。しかし、いくら女の子だからといって、級友の重荷には、なりたくありません。一人の学生として一生懸命、勉学に励みたいと思っています。

製図も、実験レポートも、夜おそくまでかかって漸く完成です。

明日、学校で、級友が、どんな具合にまとめてきたか、見たり聞いたりするのがたのしみです。

みんな、適当に、私から「女」を無視して、話し掛け、くさしたり、言い合ったりする時、やはり、私はこの科に学んで幸だ、と思うようになりました。

こんなことで、私は、目下三年生。今日の今日まで何とかやってきましたが、これから先は、どうなることやら、微分だ、積分だ、モーメントだと、理論相手の勝負なら、つたない力で、何とか出来たけど、社会は、これほど、男女平等ではない様子、私にもできるでしょうか。チョット不安です。

でも、もう私は、我が道を走り出してしまったのだから、もどることは勿論、止まることもできません。

ままよ／＼こうなったからには、走れるだけ走って、走りまくってみようと思っています。

筆者は工学部では初めて機械工学科に学ぶ、女子学生です。現在、母校には、土木1名、建築27名、機械1名、工化4名、の女子学生が在籍しています。

校友会報原稿募集

校友会報は昭和35年10月に創刊してから、昭和48年7月発行で第23号になりました。会報発行は校友会活動の中で、会員名簿作成と並んで最も重要な事業あります。現在は年2回に計画を立てて発行し、全校友に送付し、全学生に配布しております。したがって会報の果す役割はますます大きくなって参りました。教職員各位、校友並びに学生諸君からの御寄稿を熱望するものであります。執筆のヒントとして下記に項目を列挙しましたので、参考になされ隨時御投稿をお願いします。

1. 科学ダイジェスト 10. 学校生活の回顧

- | | |
|--|--------------|
| 2. 研究解説 | 11. 学生生活の実態 |
| 3. 視察見学状況 | 12. 各種だより |
| 4. 技術ニュース | (1)校友会支部だより |
| 5. 設計施行報告 | (2)学内だより |
| 6. 実験・実習報告 | (3)クラス会 |
| 7. 随筆・紀行文 | (4)クラブ・クラブOB |
| 8. 各種行事の状況報告 | (5)同好会・同好会OB |
| 9. 個人消息(転勤・結婚・昇任
留学・帰朝・学位取得・学会
受賞・死亡等) | 13. その他 |

工業化学科1、2回生クラス会報告

高坂彬夫

卒業して20年、思い出の地郡山でクラス会を行なうことを東京在住の岡村（公）氏と計画したところ、多くの級友から御賛同を得、去る4月29日 13時、母校時計台下に集合した。

「やあ、久し振りだね。」にこやかに握手する級友には、学生時代の面影とアクセントが残っている。

当日、日曜日にもかかわらず高木先生が心よくキャンパスを案内して下さった。

図書館屋上からキャンパスを見渡し、20年前の木造校舎がわずかに1棟残っているのを懐しがるとともに、母校の発展を心から祝福した。

ついで、教員宿舎のある杉林を抜け、木造1号校舎、大講堂、武道館、部室棟を廻り最後に工化教室を見学、旧北心寮跡、旧工化跡ではしばし立ち止り、学生時代、を思いだし感概無量だった。

現在の工化教室には、最新の試験および研究装置が設備され、学生諸君は恵まれた教育環境の中で勉学できるのが幸であると思った。

16時より、市内「鉢伊」で、郡山在住の恩師、篠崎岩田、宇野原、高木の4先生を囲んで1、2回生合同のささやかなクラス会を行なった。

先づ、篠崎先生をはじめ諸先生からお言葉をいただいた後、1回生、2回生の近況報告があり、上石、岡村（次）氏の労作、卒業アルバムを見ながら学生時代を回顧、都合で出席出来なかった級友の消息の報告、家族の写真の交換、種々談笑した。最後に母校の発展、恩師の御多幸を祈り、「若きエンジニアの歌」を歌いまたの再会を約束し、20時30分散会した。

なお、工化1回生の名称は「一亜会」と呼ぶことに



なった。

工化の各先生、校友会の事務局から大変お世話になり、楽しいクラス会を無事終了できたことを出席者一同とともに厚く御礼申し上げます。

当日の出席者名

1回生 上石、岡村（次）、岡村（公）、小橋、菅本、
杉原、永瀬、安藤、櫛田（旧姓志賀）高坂

2回生 後藤、菊池、篠崎（道）

（高坂記）

（報告者 工業化学科第1回卒業 山形大学助教授）

事務局だより

〔人事〕 昭和47年6月1日、就職以来、下宿紹介事務等、一生懸命仕事をなされ、ノッポで明朗な遠藤恵子さんは、一身上の都合により、本年二月末日付で退職されました。

尚、後任には三月一日付で河内美知子さんを決定しました。

〔会館移転〕

かねてから校友会館の充実と移転について検討しておりましたが、この度、学部当局の厚意と援助によって、学生諸君が、課外活動の本拠である工学部52

号館（各部の部室主体の館）の表玄関を占有して、新会館を設置する運びとなりました。

旧館からの引越しは、4月26日、学部当局並びに役員その他有志の協力で、無事に終了した。

旧い人達には教養時代のなつかしい大講堂跡ですので、場所的には正門から少し奥まったところですが、各室は明るく近代的で、事務能率は上るものと期待しています。放課後は部員の出入りが激しく、活気に満ちています。来学の折には是非立寄って下さい。

昭和47年度 寄贈図書名

工学部校友会では、昭和47年度、本会事業計画の一端として下記の学術図書を工学部図書館に寄贈した。これは以前のあかしや奨学資金に代るもので、本会の重要な事業の一つであります。これ等の書籍名は今後各報に年度別で常に一覧掲示致しますので、よろしく御利用下さい。

Landolt - Bornstein.	Bd. 2 Teil 7
	Bd. 2 Teil 8
	Bd. 2 Teil 9
	Bd. 3
	Bd. 2/9
	Bd. 4/2/a

母校からの事務連絡

卒業生の皆様益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

最近各種資格試験等に要する証明書の発行依頼について急ぎの問合せがありますので、下記の方法にてお申し込み下さい。

- 申込 郵便（郡山局私書函第12号 日本大学工学部教務課）または、教務課窓口に申し込んで下さい。電話では、一切受付けておりません。郵送の場合は、学科、入学および卒業年度、本籍、氏名、生年月日等明記するようお願い致

します。なお本籍、氏名等の変更があった場合には戸籍抄本一通添付して下さい。

○手数料 成績証明書	1部	100円
卒業証明書	1部	50円
履修証明書	1部	50円
	(科目名を必ず記入して下さい。)	
返送料 普通便		20円
速達便 速達便		90円

現金または郵便切手にてご送付下さい。

自動車のこと

人間が「自らの意志と体力によって運転する車」という意味で、自転車と名付けたことは素晴らしい。そこには、機械文明に説教されて、目下窮屈の如くわめきたてている愚な人間共の到底持ち得ない豊かな人間性を感じる。

近時、生活状勢が激しく移り変り、あまりにも人々の生活感覚の順応能力を超えている為、生物学的負荷がオーバーフローし、感覚的にはむしろ零の状態になり、奇妙な安心感をもって文明と云う美名のもとに登場した機械を、なかなか自動車と称するものをどんなに期待したことであろうか。それは、あの車を自動車と称し、自らがその奴隸となり、豊かな人間性を失っていくのを省りみなかったことでも分る。

静かに考えてみたまえ、自動車は、実は、他動車ではないか。自動車の「自」は、本来人間が自らを呼ぶ時使うべき、尊厳に満ちた、自己の理念から発した言葉である。

人間は機械にへつらい、敬白し、あの車に人間の為の自らを捧げてしまったのである。何と人間性の侮蔑ではないか。この時から人間は機械の虜となり、自

己を失い、豊かな真の文明が、洪水に流れ去る砂丘のように、とめどもなく崩壊し、失なわれていったのである。

あやまつた今日的機械文明によって人間は、不幸にこそなれ、必ずしも幸福にならなかつたではないか。正に天に向って唾をする例のとおり、その結果は正確に自然の摂理に違わず、人間の生命現象すらおびやかしている。社会は、この恐怖に満ちた自然の仕打ちに混乱している。全くこれは、自転車の「自」と自動車の「自」とを区別することが出来なかつた人間の無能さの証明である理だ。しかば、我等如何にあるべきか。それは、自と他を本質的に認識し、何が主たるかを知り、自然現象にもっと謙虚になり、これを善用し、人間性の豊かさを求める技術者になるべきだと思う。

自動車よ。貴様は私からみれば、全くの他動車なのだと云つてやれ、そして「自己」のない車をいたわってやれ。

(筆者 工学部機械工学科

岡 憲治)

東磐梯寮への招待

日本大学を卒業された校友の皆様、工学部が、厚生施設の一環として、会津磐梯山の東山麓に寮を建築して、間もなく10年になろうとしています。

大学では、校友の方々の来訪を、心から歓迎しています。ここに御利用方法を案内致します。

- (1) 教職員付添幼児の宿泊費は徴収しない。
- (2) 他学部の学生の利用は教職員の使用料金に準ずる。
- (3) 小学生は宿泊のみ半額とする。
- (4) 日帰り一人につき50円但し幼児は徴収しない。

日本大学東磐梯寮 の利用について

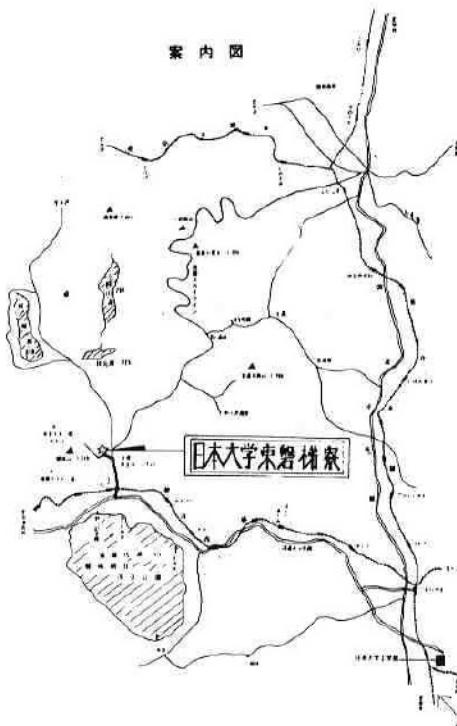
1. 寮の管理は工学部に於て行う。
2. 利用は工学部教職員、同学生並びに本学関係者（校友も含む）に限る。
3. 利用にあたっては工学部教職員、学生を優先する。
4. 申込みは利用日の一週間以前とし工学部庶務課へ申込み現地受付は一切認めない。
5. 詳細については工学部庶務課に問合せる。

日本大学東磐梯寮 使用規定

1. 寮の使用者は管理人の指示に従うこと。
2. 門限は午後9時30分 消灯は午後10時とする。
3. 使用した寝具等は各自で整理し掃除は毎日、朝食前に行うこと。
4. 喫煙は所定の場所において行うこと。
5. 寮の使用者は必ず毎日の行動予定表を管理人に提出すること。未提出で行動した者については翌日より宿泊を認めない。
6. 他の者に迷惑をかける行動（室内、室外）を慎むこと。
7. 寮内の飲酒は禁止する。
8. 学生の入寮の際は管理人に学生証を提示すること。
9. 建造物、器具、その他を破損した場合においては、弁償せざることがある。
10. 食事時間は別に定める。

利用者費用

学生宿泊料	教職員及本学部関係者宿泊料
600円(1泊3食付)	800円(1泊3食付)
内 訳 朝食 120円	内 訳 朝食 120円
昼食 100円	昼食 100円
夕食 180円	夕食 180円
宿泊料 200円	宿泊料 400円
(雑費含む)	(雑費含む)



バス利用の場合

磐越西線猪苗代駅下車、駅前よりバスで磐梯高原行きに
乗車し京王ロッヂ入口バス停留所で下車し(駅より約20分)
日本大学東磐梯寮まで徒歩約7分。

校友会報第23号

発行所 福島県郡山市田村町徳定字中河原1
日本大学工学部校友会
電話 郡山 (0249) 44-1327
振替口座番号 郡山 1990
郵便番号 979-66
発行日 昭和48年7月10日
発行人 事務局長 佐藤光正
編集人代表 理事 水田守